

1. 題材設定の理由

何かとあわただしい年末年始は、生活のリズムも乱れがちになる。そんな冬休みを有意義に過ごすために、家族や地域の一員という立場から自分の生活を見つめ直させたい。自分には何ができるのか、どんなことをすべきなのかを含めて考えさせたい。

2. 指導のねらい

年末年始の行事を通して、家族の一員としての過ごし方を話し合い、冬休みの計画を立てることができる。

3. 指導計画（全1時間）

事前	・年末年始に家庭内や地域で恒例行事のように行われていることとその意義を調べて、ノート①に記入するよう指示しておく。
本時	・調べてきたことを交流し、家族や地域の一員として参加可能なことや自主的に実践することを話し合い、冬休みの計画を立てる。
事後	・ノートや日課表を家庭に持ち帰り、家族にも冬休みの計画について理解してもらう。冬休みに新年の目標や振り返りを記入する。

4. 関連指導の工夫

- 家庭科：「どのように生活しているかな」  
 = 1日の生活の振り返り  
 = 家族の仕事，生活の振り返り
- 道徳：郷土愛，家族愛

	活動のねらい	活動の内容	指導・援助の留意点	資料等
はじめの活動	・年末年始の行事やその意義について調べてきたことを交流する。	◎事前に調べて「ノート」に書いてきたことを発表，交流する。 ・家では・・・ ・地域では・・・	・調べてきたことをもとにする。 ・家と地域に分けて発表，交流する。	ノート① ・写真等の資料があれば準備する。
課題：家族や地域の一員として、冬休みをどのように過ごすかについて考えよう。				
中心的な活動	・交流を通して家族や地域の一員として大切だと感じたことをまとめることができる。 ・まとめたことをもとに冬休みの計画を立てることができる。	◎家族や地域の一員として大切にしなければならないことを話し合う。 ・家では・・・ （家庭状況の実態に合わせて） ・地域では・・・ （地域性に合わせて） ◎話し合ったことをもとにして各自で冬休みの計画を立てる。	・家族の方の思いや地域の方の思いを考えさせる。 ・家の中での仕事の分担や地域行事への積極的な参加を促す。	・冬休みの計画を立てる日課表を準備する。
まとめ	・新年を迎えるにあたっての自分の願いをもつことができる。	◎話し合いや日課表をもとに、冬休みへの決意をもつことができる。 ・願いが明確になっている子どもに思いを語らせる。 ◎冬休み中に、新年の決意や冬休みの反省を記入しておくことができる。	・願いが明確になっている子を意図的に指名して学級全体に広める。 ・日課表を家に持ち帰り、冬休みへの決意を家族の人にも知ってもらうよう話す。 ・新年の目標を記入し、家でのアドバイスをもらってくるよう指示する。また、冬休みの振り返りを記入するよう指示する。	ノート② ノート③